

令和 諏訪形 かわら版

第40号
諏訪形自治会
会長 伊藤淳一

諏訪形誌刊行委員会・活用委員会の 解散会が行われました

二月二十二日(日)、諏訪形誌刊行委員会と諏訪形誌活用委員会の解散会が行われました。

「今ごろ諏訪形誌刊行委員会の解散?」と思われる方もいらっしゃると思います。『諏訪形誌』は五年あまり前の二〇二〇(令和二)年末に刊行したのですが、その刊行委員会が解散しないうちに「コロナ禍」の時期となつてしまい、解散会を行うことができず、現在まで来てしまいました。その後、五年間という期間つきで発足した「諏訪形誌活用委員会」も昨年未をもって活動を終了しました。そのようなわけで、この時期に両委員会の解散会を実施する運びとなりました。当日は『諏訪形誌』の刊行に携わっていたいただいた三十一人の皆さんにご参加いただきました。

会ではまず、諏訪形誌刊行委員長、諏訪形誌活用委員会顧問をお務めいただき、この活動を中心となつて牽引してくださった北沢伴康さんに十年以上にもわたる活動を振り返っていただきました。次に、諏訪形誌刊行委員会副委員長、諏訪形誌活用委員会委員長をお務めいただいた柳澤公一さんから十年間のあゆみについて紹介していただきました。『諏訪形誌』発刊や諏訪形誌活用委員会の活動にご尽力いただきながら、きちんとお礼を申し上げる機会もなくお亡くなりになられてしまった方々への黙祷も行いました。また、上田市の補助金を受けるための苦労など、なかなか表には現れてこない仕事に取り組んでいたいただいた事務局の皆さんのご苦労などにも触れていただきました。会計担当の太田さんの会計報告の後、諏訪形誌刊行委員会事務局長の宮下省二さんに、諏訪形誌刊行委員会発足以前の経緯も含めてのお話とごあいさつをいただき、その後懇親会となりました。

懇親会は刊行にあたっての苦労話などを振り返りながら、それでもようやくひと区切りとなったことの安堵感にあふれたものとなりました。ただ、こういう場で皆さんのお話をうかがっていると、まだまだ記録に残しておきたい興味深い話が多いことに気づかされます。そのようなことをどうやって記録に残していくのかも今後の課題であると思います。



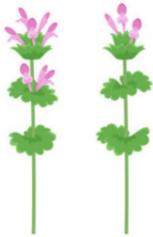
なお、諏訪形誌刊行委員会・諏訪形誌活用委員会の活動は終了となりましたが、これらの委員会の活動は諏訪形まちづくり協議会に引き継がれます。今後は自治会の交流親睦会や諏訪形公民館の文化祭などの機会を捉えながら、地域の皆さんに諏訪形誌について知っていただくことができるような活動を計画していく予定です。また、『諏訪形誌Web版』では、これまでほど頻繁にはありませんが、新たなデータが整い次第公表していく予定です。こちらもご覧いただけたいと思います。『諏訪形誌Web版』のURLは <https://suwagata.ueda-common.net/> となります。

諏訪形誌



諏訪形公民館のコピー機が新しくなりました

諏訪形自治会ではコピー機を更新しました。これにより、今までよりもランニングコストが安くなると同時に、スキャナとしての利用やコンピュータから直接コピー機で印刷できる機能が追加されるなど、便利で使いやすくなったと思います。使用方法などについては自治会・伊藤自治会長にお問い合わせください。



変に暖かかったり、急に寒かったりでどうも落ち着かない気候が続きますが、水田では「ホトケノザ」が開き始めています。

よく誤解されるのですが、春の七草に数えられる「ホトケノザ」は別種で黄色い花をつけます。



かてりやの会主催 「新春カラオケを楽しむ会」がありました

諏訪形シニアクラブかてりやの会では、健康講座の一環で「近助カラオケ」(近助の「助」は助け合いの意味)としており、決して誤字ではありません。を、月二回諏訪形公民館で行っておりますが、その延長線上で、年二回「カラオケを楽しむ会」を開催しております。

今回、一月二十四日(土)に「新春カラオケを楽しむ会」を開催したところ、諏訪形自治会以外からも参加していただき、総勢二十名で和気あいあいと行われました。

歌を歌うということは健康にも良いということ。「健康講座」の中に入っている関係で、健康講座でのお話や健康体操をお願いしている城下地域包括支援センターの職員の方も呼びひいて、一緒に歌っていただきました。また、カラオケ仲間からの紹介で、須川自治会と、上田市中心からも参加していただきました。参加した代表の方から、感想を寄せていただきましたので、ここに紹介させていただきます。

新春カラオケを楽しむ会に、お声をかけていただき誠にありがとうございました。参加させていただき、楽しい時間を過ごした上に、皆様方から感謝の言葉をいただきました。また、城下地域包括支援センターの若い二人の唄も良かったです。実行担当者の方のおかげと御礼申し上げます。私事ですが、去年は三度の入院を繰り返し、好きなお酒も医者に止められ、今の楽しみはカラオケのみとなつてしまいました。今後ともよろしくお願い致します。

カラオケを歌い聴く、本当に素晴らしい集いでした。高齢者のパワーが強く感じる、感動的な集いでありました。実行担当者の方の準備万端の心配りは、参加者全員が感激した次第です。次回が今から楽しみです。私たち高齢者の仲間にも、この素晴らしい集いを吹聴したいと思います。ありがとうございます。

七ブロック五隣組 西沢照夫さん

先日は、カラオケを楽しむ会にお招きいただき、ありがとうございます。皆様の素晴らしい歌唱力に圧倒されました。「近助カラオケ」は、毎月第一と第三の火曜日の午後一時から午後三時まで開催していますので、ぜひ参加してください」と誘われました。

城下地域包括支援センター 荒井さん 市村さん

投稿：諏訪形かてりやの会 会計 金井 保芳 さん



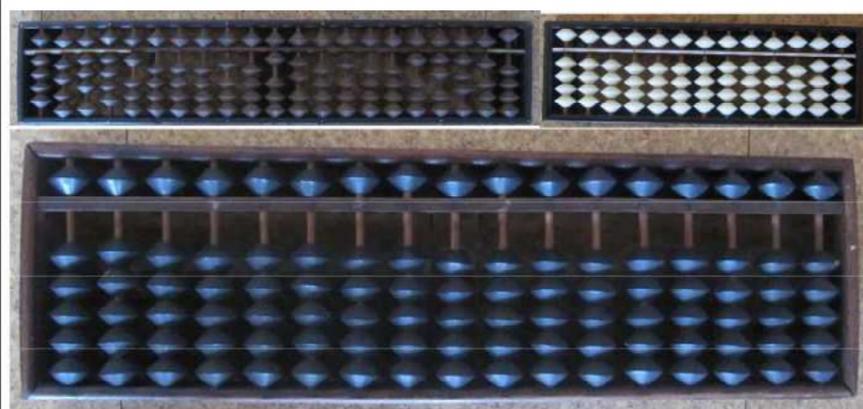
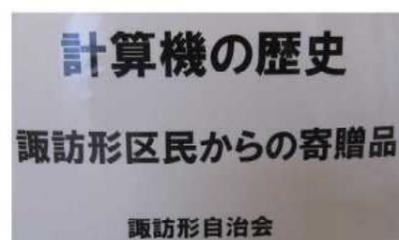
新春カラオケを楽しむ会 2026.01.24.



計算機の歴史

諏訪形公民館大広間の一角に「計算機の歴史」という展示があるのをご存じでしょうか？諏訪形在住の有賀西夫さんが以前、仕事で扱っておられた機器や道具などを寄贈してくださったものです。見たこともないようなものからちょっと年配の方だったら仕事などでも使ったことがあるようなものまでいろいろです。

ここではその展示物を紹介させていただきますが、公民館にお立ち寄りの折にはぜひ、実物をご覧ください。



まずは、皆さんよくご存じの「そろばん」です。上のふたつは普通にあるものですね。ただ、下の段のものはよく見ると作りがちょっとちがいます。そう、「たま」の数がちがいますよね。そもそも、室町時代に日本に伝わってきたそろばんは上が2珠（玉）、下が5珠（玉）だったんだそうです。下4珠（玉）数の算盤は昭和13年に小学校教科書の改訂に伴って生まれたもの、とのこと。わたし（筆者）が子どものころ、親が家計簿をつけるときに使っていたのは「5珠のそろばん」だったように記憶しています。



縮尺に対応して使えるものさし、とのこと。

これは何に使うのかわからなかったのですが、伊藤自治会長によると、製図などの時にいろいろな



皆さんよくご存じの竹でできたものさしです。



こちら皆さんご存じ、ダイヤルを回すタイプの電話機です。



これはなかなかの逸品ですね。なんと、英文タイプライターです。あまりお馴染みではないですね。オリベッティ社製のもので、1925年頃から輸入されるようになり、徐々に国産に置き換わっていった、とのこと。

そう言えば、「和文タイプライター」というのもあって、ひとつずつ文字をひろっていくタイプの機械でもものすごく苦勞をした（と言うほどは使いませんでした）覚えがあります。半世紀以上も前の話です。



タイガー計算機(株)のデータと照合すると、ここに展示されているものはどうやら、1960(昭和35)年製のもののようです。当時の販売価格は35,000円となっています。

こちら減多にお目にかかることがない「手回し式の計算機」です。タイガー計算機は1927(大正12)年に完成したもので、銀行や工場、科学研究など、社会の様々な場面で広く利用されました。特に造船設計における排水量計算などでは、算盤と並んで有力なツールでした。1968年頃には年間出荷台数は4万台にもものぼっています。

すべては紹介しきれませんでした。次号に続きます。